



洋書輸入協会会報

Vol. 27 No. 4 (通巻311号) 1993年4月

理事会報告

2月26日(金)

(一) 1月分収支報告

2月15日(月)付、総務委員会での検討に基づく総務委員長の報告を承認した。

(二) 定時総会準備報告

5月14日(金)開催予定の定時総会の準備状況について総務委員長より報告があった。

(三) 協会規約の改訂審議

規約改定について石原委員長より趣旨説明があり、次回12日(金)の理事会で具体的に審議することとした。

3月12日(金)

(一) 2月分収支報告

3月8日(月)付、総務委員会検討の同委員長報告を承認した。

(二) 東京国際ブックフェア

頭記ブックフェアに関し洋書輸入協会が次回より主催者側になる場合の有意性に対し活発な是非論が戦わされた。

(三) 規約改定原案の審議

先の石原委員長の説明にもとずき、討議がなされたがい。理事定員数と理事会の会費値上げの点を除き改定項目はすべて全員一致の賛同を得た。

ロ。理事の定員を7名に減員する案は小規模書店の切

り捨てに繋がることへの危惧や9名が適当とする反対意見もあったが大勢としては7名定員が支持され次回の理事会で決定することとした。なお、理事会の会費値上げは後日定員数が決った段階で審議する。

海外ニュース

著作権侵害による米国出版社の損害は4.85億ドル

国際知的所有権同盟 (IIPA) の報告によると1992年の海賊版による米国出版社の損失は3.7億ドルと推定されている。これは著作権監視リスト上の28カ国を対象に書籍について調査したもので、1991年同様、中国が最大の侵害国として上げられ、その違反行為による米国出版社の損失は1億ドルと見積られている。以下フィリッピン(7千万ドル)、ロシア(5千万ドル)、インドネシア(4千万ドル)と続いている。

損失の大部分にあたる3.7億ドルは中国、フィリッピン、ロシア、インドネシア、インド、ブラジル、タイ、ベネズエラ、パキスタンの9カ国で占めている。

IIPAは台湾、タイに加え、イタリア、韓国、ポーランドを米国通商法上の“優先国”と指定しており、これらの国はその著作権保護と施行を改善しない場合は米国通商代表部による報復の対象となる。

—BP レポート 2月22日号から抜粋—

理事会報告1	洋書輸入通関統計とその分析(前編) ...2	第27回麻雀大会観戦記4
海外ニュース1	JBIA DIRECTORY 19934	東京の坂と橋と文明開化(34)5
[1992(平成4)年1~12月、]	うちの会社4	広告6

1992（平成4）年1～12月、洋書輸入通関統計とその分析（前編）

洋書輸入協会顧問 相良 廣明

大蔵省関税局から、1992（平成4）年1～12月の日本貿易統計が発表されたので、その中の洋書関係の数字をピックアップして表示すると共に、若干の分析を試みたい。

1. 1992年1～12月、書籍・雑誌の輸入通関統計表

（表1）書籍

（単位 百万円）

品 目	'91.1～12月 価 額	'92.1～12月 価 額	前年比	構成比
			%	%
単一シートのもの	55	100	182	0.4
辞典及び事典	489	456	93	1.7
その他のもの	26,580	26,041	98	97.9
計	27,124	26,597	98	100.0

（注1） 書籍とは、「印刷した書籍、小冊子、リーフレットその他これらに類する印刷物（単一シートのものであるかないかを問わない）」を対象とする。

（注2） 単一シートものは、折り畳みであるかないかを問わない。この分類は'88より新設のもの。

（注3） 辞典及び事典には、シリーズの形式で発行するものを含む。この分類は'88より新設のもの。

（注4） 「その他のもの」が、いわゆる一般の書籍である。

（表2）新聞・雑誌その他の定期刊行物

（単位 百万円）

品 名	'91.1～12月 価 額	'92.1～12月 価 額	前年比	構成比
			%	%
一週に4回以上 発行するもの	90	101	112	0.5
新 聞	26	27	104	0.1
雑誌その他の 定期刊行物	14,283	19,232	135	99.4
計	14,399	19,360	134	100.0

（注1） 新聞、雑誌その他の定期刊行物は、挿絵を有するか有しないか、または広告を含んでいるかいない

かを問わない。

（注2） 「一週に4回以上発行するもの」は、'88より新設のもの。新聞ではない。

（表3）書籍・雑誌の合計額

（単位 百万円）

品 名	'91.1～12月 価 額	'92.1～12月 価 額	前年比	構成比
			%	%
書 籍	27,124	26,597	98.1	57.9
新聞・雑誌	14,399	19,360	134.5	42.1
計	41,523	45,957	110.7	100.0

（注1） 価格はCIF又はC&Fである。

（注2） 小額貨物の20万円以下は含まれていない。

（注3） 書籍は、現品入荷月の15日までに届出が行われるため、入荷より平均1ヵ月の遅れで計上されている。

（注4） 雑誌は、最終号が到着したと認められる時点において届出が行われるため、初号入荷時よりも約1年遅れで計上されている。

〔分析〕

(1) 書籍、新聞・雑誌の合計額は、10.7%のアップ
バブル崩壊後の不景気下としては、一見非常に成長率が高いようであるが、これは'91（平成3）年の17%ダウンの揺り返しであって、'90（平成2）年の502億円と比較すると、まだ43億円（8.5%）及ばない。

なお、'92（平成4）年は、実績のある既存の同業者の脱落、或は経営規模縮小が多かった反面、新規の業者の参入も多かったと聞く。'91の17%ダウンの影響と共に、マーケットの構造の変動が深刻であったためであろう。

(2) 円高調整をすると15.3%のアップ

'92の為替相場前年比は、洋書輸入に関しては4.6%の円高である（表7参照）。従って'92の10.7%アップに円高分を加えると、実質的には15.3%のアップと考えられる。

(3) 書籍は不振

書籍は不振であった。'90に比較すると2年連続のダウンになっている。

(4) 新聞・雑誌は史上最高

'92の新聞・雑誌の輸入額194億円は、戦後の民間貿易再開以来の最高の数字である(表4参照)。不景気の襲来に備えて研究投資が地道に行われたことと、外資系輸入業者との死活を賭けた出血競争が、輸入増大をもたらしたものであろう。ただし急成長の後には急減少もあり得るので、'93の数字を見なければ194億円という数字の信憑性は分らない。

2. 最近10年間の推移一覧

(表4) 1983~'92年書籍、新聞・雑誌輸入通関統計推移

表(指数は1980(昭和55)年を100とした)

(単位 百万円)

暦年	書 籍				新聞・雑誌(注)				計			
	価 額	単比	指数		価 額	単比	指数		価 額	単比	指数	
		%				%				%		
1983	20,028	94	87		11,130	99	99		31,158	96	91	
'84	20,874	104	91		11,006	99	98		31,880	102	93	
'85	21,897	105	95		11,087	101	99		32,984	103	96	
'86	18,174	83	79		9,837	89	88		28,011	85	82	
'87	21,461	118	93		12,339	125	110		33,800	121	99	
'88	23,143	108	101		13,591	110	121		36,734	109	107	
'89	27,181	117	118		14,083	104	125		41,264	112	120	
'90	33,274	122	145		16,966	120	151		50,240	122	147	
'91	27,124	82	118		14,399	85	128		41,523	83	121	
'92	26,597	98	116		19,360	134	172		45,957	111	134	

(注) 1988(昭和63)年から、雑誌に新聞が含まれたため、'87以前の数字は、すべて新聞含みの数字に訂正してある。

3. 主要6ヵ国の1992年1~12月、書籍、新聞・雑誌の輸入通関統計表

(表5) 主要6ヵ国の品目別内訳

(単位 百万円)

国 名	書 籍				新聞・雑誌			
	単一シート	辞・事典	その他	計	週4回以上	新聞	雑誌・定刊	計
米	25	114	9,601	9,740	1	12	6,634	6,647
英	4	131	6,625	6,760		1	4,509	4,510
独	1	10	3,369	3,380	1		1,910	1,911
仏	3	4	1,031	1,038		6	787	793
オランダ	1	1	884	886			2,862	2,862
スイス	32		494	526			789	789
小計	66	260	22,044	22,330	2	19	17,491	17,512
その他の国	34	196	4,037	4,267	99	8	1,741	1,848
計	100	456	26,041	26,597	101	27	19,232	19,360

[分析]

- (1) 書籍の中の単一シートは総額が少ないが、その中でスイスから32百万円輸入されている。美術関係の印刷物であろうか。
- (2) 辞・事典類では、総額2.6億円のうち、英国から半分の1.3億円が入荷している。この分野では、引き続き英国が健闘している。
- (3) 新聞が主要6ヵ国で19百万円、その他を合しても27百万円では、雑誌その他の定期刊行物の0.1%にしか当たらない。あまりにも少なすぎるように思われる。

(表6) 主要6ヵ国の集計

(単位 百万円)

国名	書 籍				新聞・雑誌				計			
	価 額	単比	単比		価 額	単比	単比		価 額	単比	単比	
		%	%			%	%			%	%	
米	9,740	98	37		6,647	118	34		16,387	105	36	
英	6,760	98	25		4,510	145	23		11,270	112	25	
独	3,380	101	13		1,911	156	10		5,291	115	11	
仏	1,038	91	4		793	112	4		1,831	99	4	
オランダ	886	91	3		2,862	158	15		3,748	134	8	
スイス	526	98	2		789	197	4		1,315	140	3	
小計	22,330	98	84		17,512	136	90		39,842	111	87	
その他の国	4,267	101	16		1,848	124	10		6,115	107	13	
計	26,597	98	100		19,360	134	100		45,957	111	100	

(注1) 書籍は単一シート、辞・事典、その他を含む。

新聞・雑誌は、週4回以上発行するものを含む。

(注2) ドイツは1991年より東西ドイツ合併の数字を用いている。

4. 主要6ヵ国為替相場の動向

(表7) 1992年1~12月、主要6ヵ国の年間平均為替相場の前年比と、その他の国の推定

通 貨	'91年間平均為替相場	'92年間平均為替相場	前 年 比	年間洋書輸入価額構成比	'92円高又は円安の加重平均
	円	円		%	
US.\$	136.13	127.64	6.2%の円高	35.7	2.21%の円高
Stg.£	242.59	228.06	6.0%の #	24.5	1.47%の #
D.M.	82.23	82.04	0.2%の #	11.5	0.02%の #
F.FR.	24.38	24.36	0.1%の #	4.0	0.01%の #
D.G.L.	72.96	72.84	0.2%の #	8.1	0.02%の #
S.FR.	95.31	91.33	4.2%の #	2.9	0.12%の #
小 計				86.7	3.85%の円高
その他の国			推定5.5%の円高	13.3	0.73%の #
総 計				100.0	4.58% ≒4.6%の円高

(注) 円高、円安率の計算は次の式によった。

$$\frac{\text{前年同期}-\text{当年}}{\text{前年同期}} \times 100$$

〔分析〕

'92は、米、英、スイスに対する円高が目立つが、独、仏、オランダに対してはほとんど上下がない。主要6ヵ国以外の洋書輸入に関する主立った国16ヵ国においても、加、豪、ニュージーランド、伊、印度、香港、フィンランドに対しては5%以上の円高であるが、その他は上下が少ない。'89の11.9%の円安、'90の13.4%の円安、'91の7.6%の円高に比較すると、為替相場が安定してきている。洋書輸入業にとっては、円高にせよ円安にせよ、為替相場が安定していることが望ましいことである。(後編に続く)

JBIA DIRECTORY 1993

(洋書輸入協会ダイレクトリー1993年版)

25.7×18.2cm 360頁 会員価格 2,500円(送料共)
一般価格 4,500円(〃)
海外価格 8,000円(〃)

第27回麻雀大会観戦記 (平成5年1月22日)

紀伊國屋の湊さんが、3桁のプラスで圧勝した。記録を調べないと正しいかどうか分からないが、古くから参加されている村山さん(ゲーテ)や武田さん(洋販)の記憶にも、3桁のプラスは無かったとのことである。たしかに、オカウマのつかない麻雀大会の、半チャン3回戦で100点以上勝つのは大勝利であろう。準優勝は、タトルの雨宮さん。実力派の一人と言われている方。3位に初参加ながら、やはり大国(麻雀)の丸善の永棟さんが食い込んだ。4位に、麻雀強国東亜ブックの森田さん。東亜ブックは、鶴さん父子が参加して、大会を盛り上げてくれた。結果は、シニア12位、ジュニア17位で、親父の意地を少し見せてくれました。

不健康的な遊びの代表格だった麻雀も、老化防止とストレス解消にうってつけの競技とさえ言われた。ギャンブルとしてのめりこむものではなく、ゲームとして麻雀を楽しむことが大事であり、したがって麻雀大会への参加をお勧めするゆえんでもある。

「アタマとココロのサウナ風呂」雀荘へ是非お出かけのほどを。次回は、6月か7月を予定しております。

上位の成績は次の通りでした。

(優勝)	湊 周二(紀伊國屋)	+108
(準優勝)	雨宮孝行(タトル商会)	+74
(三位)	永棟 隆(丸 善)	+59

(EA記)

うちの会社

第三書房

第三書房の前身は、昭和7年「外語学院出版部」として神田猿橋に店を構える。戦後昭和24年には神田猿楽町に社を移転し社名も現在の第三書房に改め、ドイツ語フランス語語学専門出版社として再出発しました。

ドイツ語は昭和25年名著といわれている桜井和市著「ドイツ広文典」昭和28年入門書としてはベストセラーになった「藤田ドイツ語入門」フランス語は昭和23年増田義雄著「基準仏和辞典」昭和34年に名著家島光一郎著「フランス文法入門」発行、洋書部は昭和28年頃より女性1名で、フランス図書中心に先生の注文のみに応じて輸入しております。

昭和61年に37年間居た神田猿楽町を離れ新宿矢来町に移ってはや7年になります。地下鉄は神楽坂ですが

住宅街の静かな所で近くには新潮社、旺文社、音楽の友社等出版社も多く、小さい我が社としましても心強い限りです。

大学制度改革にともない、第二外国語が選択になったり学生数が減ってきた事も、語学出版社にとってはきびしい時代になってまいりました。

現在「やさしく話す…」ひとくち旅行会話シリーズでは、英・独・韓・伊・中とあり今後も各国語を出版して行くつもりですが、あくまでもドイツ語、フランス語の教科書・参考書を中心に出版して少しでも語学教育に役立ちたいと思っています。

第三書房社長 藤井嘉明

本郷界隈の坂〔5〕 菊坂と菊富士ホテル(2)

丸善・本の図書館 鈴木 陽二

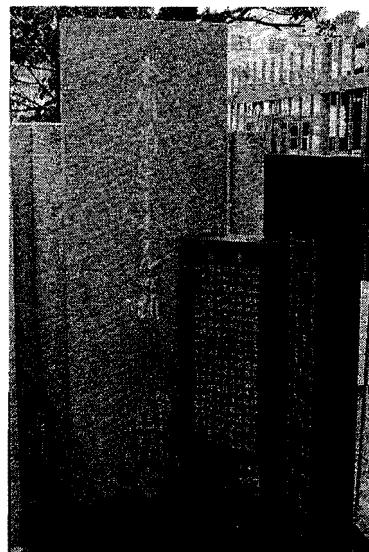
「本郷菊富士ホテルの跡」という碑が、あの「菊富士ホテル」のあった場所をかりうじて私たちに教えてくれる。それには「…菊富士ホテルに止宿した内外の文学、芸術、思想、医科学、政治、経済各界に亙り多くの逸材を輩出近代日本の歩みに曙光を放ちその名を今日に及ぶ…」と誇らかに記されており、その脇には止宿者の名を刻んだ石板も立っている。その名前に接するだけで、このホテルが日本の近代文化史に果たした役割の重さを理解することができるほどで、少し長くなるがその一部を列記すると、石川淳、宇野浩二、宇野千代、尾崎志郎、坂口安吾、高田保、谷崎潤一郎、直木三十五、広津和郎、正宗白鳥、真山青果、竹久夢二、三木清、中条（宮本）百合子、大杉栄、福本和夫、伊藤野枝、三宅周太郎、月形龍之介、片岡我童（十二代片岡仁左衛門）、石井漢、伊藤大輔、溝口健二、ブランデン、エリセーエフ、そしてこの碑には記されていないが、増富平蔵、コンラッド、ネフスキー、プレトネル兄弟なども逸することのできない人物であろう。彼らの菊富士ホテル時代には興味の尽きないエピソードで一杯であるが、ここでは私のかつてな選択でその一端を紹介するに止めたい。

さて、このリストに5人のロシア人が見られるのであるが、彼らはいずれも日本研究のために来日し東京帝国大学に学ぶ留学生たちであった。そして、在日中に革命を迎え、その激動に翻弄されながらも故国ソ連やアメリカ、フランスで近代的日本研究の先導者として、また泰斗として目覚ましい業績を示した人物であった。彼らを通して近代における日本研究を瞥見してみたい。

コンラッド（Nikolai Iosifovich Konrad 1891-1970）は1908年にベテルブルグ大学東洋学部の日本語科と中国語科に入学し、卒業後キエフ専門学校助教授になったが、1914年にはベテルブルグ大学から長期派遣によって東京帝国大学の留学生として来日した。そして、1917年にロシア革命を機会に帰国する。帰国後はソヴィエト連邦における日本研究の先駆者として、ベテルブルグ大学、モスクワ大学の勤務をへて初の日本学の文学博士となり、後にソヴィエト科学アカデミー会員になるなど、ソ連における東洋学、日本学の最高権威者として輝かしい業績

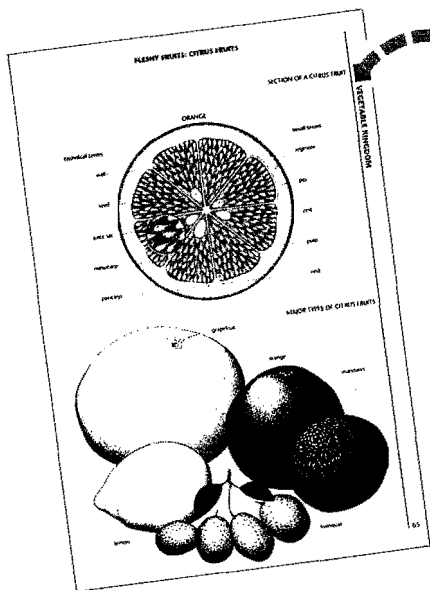
を示したばかりでなく、多くの後継者を養成してソ連における日本学の確立に大きく貢献した。このような日本文化紹介の功績によって1968年には日本政府より勲二等旭日重光章が贈られた。彼の50年以上にわたる日本文化の研究成果は膨大なもので、死後まとめられた『選集』全3巻は古典から20世紀に至る日本文学史、『古事記』から徳富蘆花の作品までの作品研究、能・歌舞伎・浄瑠璃の研究、『伊勢物語』『方丈記』などの翻訳が含まれているという。また、レニングラードのドイツ軍包囲の中で編纂作業を継続して1970年に完成した『和露大辞典』全2巻（見出し語10万以上）はその優れた内容によって1972年に国家賞を受けた。芸術関係でも日本の建築・絵画・工芸美術を考究した『日本の中世文化概要』はこの分野の代表的な研究成果として評価が高い（国際交流基金『ソ連・東欧における日本研究』）。彼は、大正3年（1914）より大正5年（1916）までの1年あまり「菊富士ホテル」に止宿したが、俳優のようにきれいな顔立ちで女性に騒がれ、洋食よりさしみの方が好きで、着物の着こなしも良く、正座のできる外人であったという。

近藤女史によると来日したロシアの東洋学者にコンラッドのことをいうと、申し合わせたように「私はコンラッド先生の弟子です」と答えががえってくると記し、「1970年に没したそのちもなお、ソ連東洋学者たちにとっては巨峰であり、日本学の総元締であった…」と述懐している。このホテルの滞在中に得た知識と体験が、きっと彼の学問を深めたものだろう。



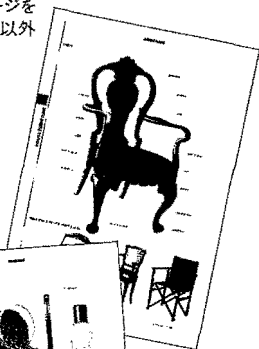
「本郷菊富士ホテルの跡」の碑

楽しく見ながら、分かってしまう。 世界最新・最大の英絵辞典です。



イラストで引ける。

例えばオレンジのツブツブを英語で知りたい時には、「VEGETABLE KINGDOM」の項目で、「FLESHY FRUITS」のページをご覧になれば一目瞭然。しかも、これ以外の細かな部分の名称も載っています。



600分野をカバー。

掲載されているイラストは、日常生活で役立つ生活用品、ファッションから、スポーツ、人体、動物、そして宇宙工学まで全600分野をカバー。3,500のカラーイラストに25,000語が収録されています。

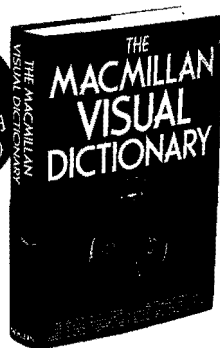
米国マクミラン

英語イラスト辞典

THE MACMILLAN VISUAL DICTIONARY

世界初の本格ビジュアル・ディクショナリーと呼ぶにふさわしい、マクミラン・英語イラスト辞典。ぶ厚い862ページの中には、眼に見えるほとんどのものが、美しく精緻なコンピューター・グラフィックのカラーイラストで描かれています。しかもそれぞれのイラストには、正確な英単語で細かな部分・部品にいたるまで掲載。日頃から英語に接している方々に欠かせない一冊です。

XXX+862ページ
インデックス付
定価 9,730円
(本体9,447円)



全国の書店・洋書売場で好評発売中!!

詳しいお問合せは ☎03(5300)1618 マクスウェル マクミラン ジャパン 〒156 東京都世田谷区松原2-42-14

1993年4月 通巻第311号 洋書輸入協会
〒103 東京都中央区日本橋1-21-4 千代田会館5階20号室

編集者 神田 俊二

☎(03) 3271-6901 FAX.(03) 3271-6920